

2021年3月19日

教養学部・総合文化研究科の学生のみなさまへ

東京大学教養学部・大学院総合文化研究科
次期学部長・研究科長
森山 工

新型コロナウイルスの感染拡大は依然として重大な局面にあります。みなさんがこの通知を受け取られる時点では、3月21日まで、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県の一都三県に緊急事態宣言が発出されています。その後、緊急事態宣言が解除されても、新型コロナウイルス感染拡大の状況には十全かつ周到な注意を払う必要があります。

このような状況に鑑みつつ、東京大学ならびに教養学部・総合文化研究科では、昨秋来、この4月の授業開始に関してさまざまな可能性を検討してきました。教養学部・総合文化研究科では、昨年の4月に授業の一斉オンライン化に踏み切って以降、オンライン教育に関する知見と経験を着実に蓄積し、オンライン教育に必要とされる施設整備もおこなってきました。その結果、オンライン型授業ならではの利点があることが確認されるとともに、逆に対面型授業ならではの利点も再確認されました。このことは、昨年度実施した学生へのアンケートの回答結果ならびに教員へのアンケートの回答結果によって実証されています（これらのアンケート結果は、<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/questionnaire/>にて近日中に公開される予定です）。これらのアンケート結果を受け、また、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見計らいつつ、教養学部・総合文化研究科では昨年のAセメスター（秋季のセメスター）から、キャンパス内における感染防止に最大限の措置を講じた上で部分的に対面型の授業を再導入し、対面型とオンライン型を適切なかたちで組み合わせる授業をおこなっています。

こうした昨年度の知見と経験に立脚し、4月からのSセメスター（春季のセメスター）では、可能な範囲でさらに対面型授業を増やしながらも、オンライン型授業を継続することで、新型コロナウイルス感染防止と良質な学修環境の確保の両立に努めます。詳細については、教養学部・総合文化研究科ホームページの「Sセメスター／タームの授業の扱いについて」

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/sst/index.html>

をご覧ください。

わたしども大学教育に携わるものとしての基本姿勢は、どのような状況のもとであろうとも、また、どのような授業形態によってであろうとも、みなさんに教養学部・総合文化研究科として時局に最適化された最高度の教育をお届けすることです。みなさんの健康面での安全・安心を第一に考慮する一方で、みなさんが被るであろう教育面での損失を最小限にとどめることです。新型コロナウイルス感染症のために教育から取り残されるものが一人もいないように図ることです。

このような教養学部・総合文化研究科としての基本姿勢をご理解いただき、以下の2点について改めて4月の始業前にご確認ください。とくに大学院から本学に入学される方々は、4月の始業前に以下をご準備ください。

-
- ① パソコンを入手し、居住家屋のインターネット環境を整備すること。パソコンは、可搬性のあるノートパソコン（カメラ・マイクが付いているもの）が望ましいです。パソコン等の入手が難しいかたにはパソコンを貸し出す制度があります。また、インターネット環境の整備が困難なかたには1か月50GBまで高速通信が可能なモバイルWi-Fiルータを貸し出す制度もあります。これらについては以下のページをご参照ください。

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/campuslife/online-lectures.html>

なお、推奨されるパソコンやインターネット環境のスペック等については、以下のページをご参照ください。

https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/OnlineClasses_preparation20210317.pdf

② みなさんが各自の **UTokyo Account** を用いて日常的に利用する IT 学習支援システムには以下のものがあります。大学院から本学に入学される方々には、3月25日から31日にかけて **UTokyo Account** が配布される予定です。

・ **UTAS** (東京大学学務システム)

<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/campusportal.do>

・ **ITC-LMS** (情報基盤センター学習管理システム)

<https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp>

大学院から本学に入学される方々は、両システムの利用方法について、以下のページをご参照ください。

・ **UTAS** https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/UTAS_Manual_sc_j20170825.pdf

・ **ITC-LMS** <https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/itc-lms/index.html>

また、これらの利用方法は、東京大学「東京大学でオンライン授業を受けるために(2021年度新入生向け)」

<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/oc/>

の「情報システムを使うために必須の手順」と「情報システムに関するその他の準備手順」の項目でも確認することができます。

とくに、**ITC-LMS** には、オンライン形式で開講される各授業へのアクセス方法やアクセス URL、教材ファイルなどがアップロードされます。

みなさんには、4月の始業へ向けて、引き続き体調の管理と始業後の学習に向けた準備をお願いいたします。

教養学部・総合文化研究科では、駒場キャンパスへの入構にあたって、東大駒場 I キャンパス入構/施設利用申請サイト

<https://select-type.com/rsv/?id=kDRuRchp5I4>

を利用しています。事前に登録の上、入構する日は必ず申請をおこない、入構時に学生証とともにスマートフォン等で申請確認メールを提示してください。構内では常にマスクを着用し、ソーシャルディスタンスを確保するとともに、建物に入館する際は手指消毒をおこなってください。

また、東京大学では新型コロナウイルス接触確認アプリ (**COCOA**) センサーを用いて、個人情報特定せずにキャンパス内の密集度をモニタリングしています。このため、キャンパスへの入構にあたっては、各自、同アプリをインストールし、**Bluetooth** 機能を **ON** にしてから入構してください。

参考

教養学部・総合文化研究科では国内ならびに学内での感染状況やキャンパス内で取られている感染防止措置などを総合的に判断し、現在の状況を表す指標としてステージを定め、各ステージに応じた対応を定めています。本通知発出時(2021年3月19日)は「ステージ・オレンジ」に該当します。ただし、緊急事態宣言の解除に伴い、3月22日より「ステージ・イエロー」に移行する予定です。現在のステージとその継続期間の見通しについて

は、教養学部・総合文化研究科のホームページに掲載されるとともに、キャンパス正門前に掲示されています。

各ステージにおける対応はおおむね以下の通りです。詳細な対応指針については教養学部・総合文化研究科ホームページを参照してください。

ステージ	授業形態	図書館の利用	課外活動
レッド	オンライン講義のみ。	入館禁止。	全面禁止。
オレンジ	原則としてオンライン講義。ただし、特に対面授業の必要があると認められた科目については対面授業を実施する可能性がある。	開館時間を短縮して開館。	原則として禁止。ただし、真にやむを得ない理由がある場合には、事前申請によってキャンパス内施設の利用が許可される場合がある。
イエロー	主にオンライン講義。ただし、一部の科目については対面もしくは対面とオンラインを組み合わせる。	開館時間を短縮して開館。	感染防止対策を講じることを条件に学生支援課の承認を得て活動可能。
グリーン	対面授業、もしくは対面・オンライン授業を組み合わせる。	開館。	通常の活動が可能。

なお、上記の判断基準は、駒場キャンパスの設備や人口密度などの諸条件を加味した本学部・研究科独自の判断に基づくものであり、実際の感染状況の深刻さや、他キャンパス・他大学の判断とは直接関係しないものであることを申し添えます。